

2007年05月31日

独立行政法人海洋研究開発機構

海洋調査船「なつしま」と無人探査機「ハイパードルフィン」の 那覇港での一般公開等について

海洋研究開発機構（理事長 加藤康宏）は、第21回太平洋学術会議（[別紙](#)ご参照）の一環として沖縄県那覇市の那覇港那覇ふ頭において海洋調査船「なつしま」と無人探査機「ハイパードルフィン」の一般公開を実施しますのでお知らせいたします。

記

- 1.日 時： 平成19年6月17日（日）10時～15時30分（受付は15時まで）
- 2.場 所： 那覇港那覇ふ頭一号岸壁（沖縄県那覇市通堂町：[別紙](#)
[地図](#)ご参照）
- 3.公開内容： 海洋調査船「なつしま」
無人探査機「ハイパードルフィン」（[参考資料](#) ご参照）
- 4.事前登録・入場料： 事前登録は不要です。また、入場は無料です。
- 5.主 催： 太平洋学術会議事務局（琉球大学内）
協 力： 独立行政法人海洋研究開発機構
- 6.その他： 1)悪天候等により中止となることがあります。
2)船内は段差が多く危険なため、ハイヒール・サンダル等、また、酒気を帯びての見学はご遠慮ください。
3)小学生以下は、保護者が必ずご同伴ください。

国際総トン数	1,739トン
--------	---------

様々な観測機器を搭載し、深海・海溝域の総合的な調査観測研究を行うことができます。また、最大潜航深度3,000mまで潜航調査することができる無人探査機「ハイパードルフィン」の支援母船としても運航しています。かつては、水深2,000mまで潜れる有人潜水調査船「しんかい2000」の母船として活躍していました。詳細は次のホームページをご覧ください。

<http://www.jamstec.go.jp/j/about/equipment/ships/natsushima.html>

・無人探査機「ハイパードルフィン」



全長	3m
幅	2m
高さ	2m
空中重量	3.8トン
最大潜航深度	3,000m

高解像度ハイビジョンカメラを備え、水深3,000mまでの映像を撮影できる水中ロボットで、2005年2月に行われたスマトラ島沖地震緊急調査では、大規模な亀裂や崩落を世界で初めて確認しました。

マニピレータ2機の使用によるサンプル採取、観測機器の設置と回収も可能です。詳細は次のホームページをご覧ください。

<http://www.jamstec.go.jp/j/about/equipment/ships/hyperdolphin.html>

お問い合わせ先：

(一般公開について)

海洋地球情報部

広報課長 田代 省三 TEL：045-778-5400

(報道について)

経営企画室

報道室長 大嶋 真司 TEL：046-867-9193